

第4回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会 (概要)

先般開催した、令和3年度 第4回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和4年3月14日(月) 13時30分～15時30分

2. 会場

Web開催

3. 主な意見等

○製材工場動態調査1月速報において、エゾマツ・トドマツ製材出荷量は前年同月比131%であり、例年建築関係の需要が弱まる時期だが、高い需要が続いていると認識。カラマツは梱包材、ラミナ、パレット共に旺盛な状況だが、春先に向けて原木の仕入れが十分ではないことや生産能力などから、受注制限を行っている工場もある。原木在荷量はトドマツ・エゾマツが前年同月比101%に対し、カラマツは62%とかなり不足感が強まっている。今年度は国・道・民で原木供給に取り組んできたところ。道有林では、次年度の立木販売量を今年度当初計画の13%増とし、販売時期もできるだけ前倒しで調整。

ロシア材は欧州に流れるものが多いため、今般のウクライナ情勢により欧州で材不足が発生し、輸入材不足・価格高騰が加速するなど道内への影響を懸念。

○今年度は事業がずれ込む事が多く2月まで間伐事業が続いた。現在主伐事業へ移行したが、主伐が遅れたため出材は減少し山土場に材は少なく、原木の集荷は厳しい状況にある。

工場の原木在庫は1.5～2ヶ月分程度しかなく、春先が厳しい。ロシア関係では合単板・集成材関係に影響が出る可能性がある。昨今のラミナ関係は乱高下している印象で、各工場原木不足に悩まされており出材を望む声が多い。

○トドマツ一般材は各社消費が上がっている。4～5月向けの原木在庫を確保出来ていないところもあり、6月のシステム販売までに在庫確保に動いている。プレカットは4～5月が不透明であり、建築資材の高騰、不足しているため着工数が少なくなることが懸念される。トドマツの製品在庫は例年、冬は潤沢だが今年は非常に少なく、販売できる在庫量が限られているため出荷は少ない。

製品価格は4月以降も上昇傾向とみられ、欧州材の入荷は依然厳しく供給面はタイトである。今後も可能な限り出材をして欲しい。

○国有林の請負事業は1～2月で終了した。原木価格は去年に比べて2割ほど上がっており、各社夏頃までは続くともっている。伐採量自体はほぼ横ばいで在庫はすぐに製品にされてしまうため充足はしていない。素材生産事業に関して言えばコロナやロシア関係の影響は大きくないと考えている。

○トドマツの一般材は徐々に逼迫感はなくなってきた。一方カラマツでは春先の入荷減を気にしている工場もあり、特に梱包・ラミナが少ない。ラミナは昨年と比べても1年で50%ほど価格が上がっており在庫は1ヶ月程度で心配の声が上がっている。道内の合板材も1月から2割ほど価格が上がっており、移出関係でも1月からの短期間でトドマツ・カラマツ共に25%前後上がっている。東北ではカラマツ原木が不足し供給が厳しい状況で、単価3万円で落札されているものもある。材についてはトドマツとカラマツのバランスを考えながら、できる限りの量を出して欲しい。

ロシア関係の不安からか輸入・移出材は「あれば買う」という勢いで買われている。ロシアの単板輸出禁止令に伴い合板の原料に20~30%ほどロシア材を使用している東北は厳しいか。本州ほどではないにせよ北海道にもある程度影響は出てくるものと思われる。

○紙パルプについては各工場の生産量は前年比95~100%だが設備としてはフル稼働に近く、パルプ材の調達が困難で在庫が厳しくなっている。トドマツは背板が多く潤沢だが、N原料材も含め価格が上がっている。一方でカラマツは背板も少なくチップ工場の在庫も少ない。輸入チップ・パルプの見通しも不透明で、ロシア材は本州の工場の一部使用しているため本州では引き合いが出てくる可能性がある。北海道から本州へ製紙原料が流れることは考えにくい、少なからず影響が出る可能性はある。

○工場の原料在庫は3月に入り一時的に持ち直したが、それでも2~3週間程度の量しかない。製材は2月下旬から3月の中旬にかけて需要は多少落ち着いた。しかしロシアの状況から今後を心配し買いに走る動きもある。4~5月分の原料在庫は不足する見通しで生産調整をする必要もある。またあらゆる資材が不足・高騰し住宅着工の減少を心配している。

昨年からある程度の価格を出して集荷している状況であり、変化していない。今の木材供給量について業界全体の課題として取り組む必要がある。

○製品市場は大きな変化はなく、注文は1ヶ月先まで入っている状況。市場全体として木材に不足感があるため、在庫のあるところに注文が集まっている。現在の原料在庫は1.5~1.6ヶ月分と去年の3分の2ほどで、4~5月は入荷が生産量を下回るため見通しが厳しい。カラマツは在庫に対して消費が多い。顧客とはトドマツの使用に切り替えられないか打診している。価格は上がっているが供給量は変わっていない。

カラマツのラミナは昨年と比べ2倍近く価格が上がっており、一過性の価格変動となってしまった場合、下落幅が大きくなることを危惧している。原材料の安定的な供給が求められる。

○苫小牧バイオマス工場は3割をチップで購入、原木在庫は10ヶ月分ほど。白糠バイオマス工場は全体の7割をチップで購入、原木を3割使用。石油価格高騰で移送コストは上がっているが、従来とチップの単価は変わっていない。

合板の品不足によりパーティクルボードへの引き合いが強くなり、作れば売れる状況だが大雪等により原料不足となっており思うように生産出来ない状況。パーティクルボードは年に1度価格が上がればよい程度のもだったが、昨今は値上げが激しい。